

人権教育

の観点から育む自己肯定感

道徳科を中心とした授業の中で、また学校行事や児童会活動などを通して「自分づくり」を取り組んでいます。『なりたい自分に向けてがんばる力を育てる』ために、子ども達一人一人が自分のよさや可能性に気付くことを大切にしています。

<行事>

- ・人権朝会
- ・運動会に向けて
- ・学習発表会のメッセージ



人権朝会の後、自分の考えを伝えたよ。自分も友だちも同じように大切なんだ！



運動会や学習発表会でがんばったことを校長先生やおうちの人にはめもらつた。この後の学校生活でも目標をもってがんばりたい。



<錦林 HAPPY 大作戦>

- ・自分のよいところを考える
- ・たてわりで伝え合う
- ・ふりかえり



「わたしのよいところは…」

- 自分のよさを言葉にすることで、「自分には価値がある」という感覚が強まる。
- 曖昧だった自分の強みが明確になり、自己理解が深まる。
- 互いに「よいところ」を伝え合うことで、相手のよさに気づき、尊重する態度が育つ。
- 自分の強みを再確認することで、「もっと頑張ってみよう」という前向きな気持ちが生まれる。
- 「認められた」「受け入れられた」という経験が、自己有用感を高める。

これらの活動を通して、次の目標をもつことに対して意欲的になったり、目標に向かって努力したりする姿が見られるようになってきました。運動会や学習発表会などの行事でも、苦手に感じていた児童が力を発揮できるようになってきています。「やればできる！」という自信をもつ児童が増えつつあると感じます。